

確かな学力の定着に向けて

# 基礎基本定着状況調査

県では、子どもたちの確かな学力定着に向けて、県内の児童、生徒を対象とした「基礎・基本定着状況調査」を実施しています。今年6月14日に実施され、各学校では結果をもとに指導の充実に努めています。

教育指導課指導係 ☎0824-73-1184

## 基礎基本定着状況調査とは

今年で4回目となるこの調査は、「読み、書き、計算」などの基礎的な内容とともに、思考力・判断力・表現力などの定着状況を把握して、指導内容や指導方法の改善・充実を図ることが目的です。対象となるのは、県内の

小学校5年生約27,700人(国語・算数)と中学校2年生約24,700人(国語・数学・英語)。市内でも31校393人の小学校5年生、8校344人の中学校2年生が参加しました。

## 通過率で各教科の結果を分析

市内小中学校の教科ごとの通過率(※)については、表のとおりです。

教科全体、あるいは各分野の状況を、県平均と比較・分析し、これまでの取り組みの成果や今後の課題などを見ていきます。

※「通過率」：正答者数を調査対象者数で割った百分率。



▶各部会で教科の成果や課題を研究

## 小学校算数

国語と同様、教科全体の通過率をはじめ、全ての領域において県平均を上回ることができました。

昨年まで課題となっていた点を研究主題として取り上げ、具体的な数値目標を掲げて取り組んだ学校もあり、研修や指導方法の工夫改善などの成果が現れていると考えられます。

しかし、子どもたちの実態を細かく見ると、図形の理解に課題があることがわかります。例えば、コンパスで円を描くことが苦手、あるいは直径・半径といった概念が理解できていないケースも見られます。

図形・作図の操作活動を積極的に取り入れ、子どもたちの理解の程度に応じたプリント学習

15×15  
=225



などを継続的に実施し、学習していくよう取り組んでいきます。

また、すでに学習していることでも、つまずいた部分があれば、その学年にさかのぼって学習し直す活動も取り入れなければなりません。

### 平成17年度通過率

●小学校算数 (単位:%)

	教科全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係
庄原市	86.9	85.8	88.7	85.5	87.7
広島県	80.0	78.8	83.0	78.9	79.8

## 小学校国語

教科全体の通過率をはじめ、全ての領域において県平均を上回っています。

しかし、聞くこと・読むことの学習については取り組むべき課題が多く残されています。

聞くことについては、メモをとりながら聞くことを指導していますが、

細かな内容について理解しながら聞くことが定着していない実態があります。これに対しては、全校放送を行い全校でメモをとる活動や聴写(聞いたことをそのまま書く)の活動など、各学校で取り入れられる活動を工夫しながら実施していくよう取り組んでいます。

読むことについては、長文を読んで場面の移り変わりを判断する、また段落相互の関係を考

える問題の通過率が低くなっています。子どもたちにさまざまな本にふれる機会をつくりながら読書の時間を充実させ、段落相互の関係の理解を深める取り立て学習を導入するなど、指導の工夫をしていきます。



### 平成17年度通過率

●小学校国語 (単位:%)

	教科全体	聞くこと 話すこと	書くこと	読むこと	言語事項
庄原市	81.2	78.6	82.5	67.5	91.8
広島県	75.3	70.8	77.0	62.4	86.1

## 中学校国語

聞くことに関しては県平均を上回りましたが、教科全体および書くこと、読むこと、言語事項が県平均をやや下回りました。生徒の意識・実態調査を見ると、「国語の授業はよくわかる」という項目において、県平均が64.4ポイントに対して、庄原市は55.5ポイントと大きく隔たりがあり、通過率との関連をもとに学習のあり方について検討していかねばなりません。

今後は、ゲームの要素を取り入れた学習活動を通して生徒の興味・関心を高めながら、話す・聞く・読む・書くといった活動をより積極的に取り入れた授業づくりを検討していきます。

聞くことについては、県平均を上回ったものの、

通過率が50%代であったことから、相手の話を聞いて大事な部分をメモしたり、内容の構成を考えたりすることが定着していないという実態があります。



### 平成17年度通過率

●中学校国語 (単位:%)

	教科全体	聞くこと 話すこと	書くこと	読むこと	言語事項
庄原市	72.1	54.8	83.5	62.6	76.6
広島県	73.0	50.4	84.2	64.4	78.1

## 生活と学習に関する意識・実態調査

### ●小学校

「国語の授業で辞書を使うのが好き」という項目が県平均とやや開きがありますが、他の項目は県平均と同等の数値で推移しています。

分かるまで努力しようとする意志や、ねばり強く取り組もうとする態度が定着してきており、このことと、通過率がよく推移していることに相関を見ることが出来ます。

児童が「わかった」と思える体験を積み重ねることで、ねばり強さをさらに育成していくサイクルを確立したいと考えています。

### ●中学校

「朝食を毎朝とる」項目以外は県平均を下回っています。「わかるまで努力する」、「苦手な教科もできるようにになりたい」、「進んで勉強する」といった意欲・態度についての数値が低くなっています。「国語の授業はよくわかる」と、「英語の授業はよくわかる」が県平均との開きがあると共に、約半数の生徒しかかわかると感じていない実態があることから、「わかった」と思う体験を味わわせながらねばり強く物事に取り組む態度の育成を共通の課題として検討していく必要があります。

### ◎各教科の通過率との間に高い関連があると考えられる項目

#### 小学校

(単位:%)

項目	庄原市	県平均
朝食を毎朝とる	96.9	96.1
わかるまで努力する	76.1	74.2
最後までやり遂げうれしかったことがある	90.3	90.9
習ったことを生活の中で利用している	77.4	77.9
国語の授業はよくわかる	73.0	72.1
国語の授業で説明や報告するとき組み立て方を考えて書いたり話したりするとよくわかる	69.7	71.4
国語の授業で気持ちを思い浮かべて読むとよくわかる	77.6	78.3
国語の授業で辞書を使うのが好き	66.2	70.2
算数の授業がよくわかる	80.4	77.9
算数の授業で解き方を考えるとよくわかる	75.6	76.4

#### 中学校

(単位:%)

項目	庄原市	県平均
朝食を毎朝とる	94.2	92.7
わかるまで努力する	49.7	53.1
最後までやり遂げうれしかったことがある	86.3	88.0
苦手な教科もできるようにになりたい	59.9	62.0
進んで勉強する	27.0	29.8
授業中に先生の話で大切・必要だと思ったことはノートに書く	63.4	67.6
国語の授業はよくわかる	55.5	64.4
国語の授業で気持ちを思い浮かべて読むとよくわかる	58.4	70.3
数学の授業はよくわかる	64.2	65.5
数学の授業で解き方を考えるとよくわかる	61.9	66.6
英語の授業はよくわかる	54.7	60.0
英語の授業で単語や文法練習等の繰り返し学習が好き	49.7	51.4
英語の授業でロールプレイやペアワークなどを行うとよくわかる	50.0	53.7

学校へ行こう  
週間

11月1日(火)  
~7日(月)

この検討委員会は、庄原市内の児童生徒の学力向上を図るために発足しましたが、新市でもその取り組みを継続しており、基礎基本定着状況調査などの結果を基に課題を明らかにし、今後の授業改善に生かすために研修を重ねています。

今回は、小学校3部会と中学校各教科の部会で集まり、調査結果を分析・協議し、各学年や教科での課題を確認しました。

今後は、これらの課題の解決のために各学校が全職員の共通認識のもと授業改善に取り組み、児童生徒一人ひとりが夢や希望をもつて未来を拓く確かな学力を育めるようさまざまな取り組みを進めていきます。

庄原市児童生徒学力向上  
検討委員会  
会長 曾利 晋三

確かな学力を  
育むために

## 中学校数学

$$y=ax^2$$



「数と式」では、「事象の中の数量関係について文字を使って表す」問題は県平均を上回っていますが、分数や減法など基本的な計算でつまづいている実態もあります。

「図形領域」については、「垂直二等分線の作図」の問題は県平均と比べても高い正答率でしたが、「おうぎ形の弧の長さ・円柱の体積を求める問題」では無回答の生徒も多く、確実に理解できるようにしなければなりません。

「数量関係」は、苦手と感じている生徒が多い分野で、中でも「反比例の表を完成する・グラフを判断する」問題の誤答が多くみられました。関数の具体的な事象をイメージして捉えられるように、内容の幅を広げた復習を行う必要があると考えています。

これらの分析結果を踏まえ、今後は次のようなことを重点に取り組みを進めていきます。

●授業や家庭学習の中で、継続的に復習できるように工夫する

●授業の単元やテスト終了時な

●自己評価を取り入れる

●教員の複数指導や少人数指導を効果的に活用して、指導をより効果的に行う

●学習内容に応じて積極的に具体物や具体例を取り上げ、操作活動を取り入れたり、日常生活と結びつけて考えたりしながら、理解を深められるような授業を展開する

●小学校の学習内容との関連を配慮した指導に取り組む

また、生徒たちの分かったという願いに込められるように、考えることや表現することに喜びや興味をもてる学習を進めていきます。

### 平成17年度通過率

#### 中学校数学

(単位:%)

	教科全体	数と式	図形	数量
庄原市	69.5	76.4	68.1	53.6
広島県	70.5	77.8	66.8	56.9

## 中学校英語

practice speaking English...



「聞くこと」、「話すこと」については、これまでの指導の成果が表れつつありますが、「書くこと」については課題が明らかになりました。

生徒のコミュニケーションを続けようとする意欲・関心は高く、通過率は県平均を上回る98・3%を達成しています。この意欲をもとに、正確に伝えたり表現豊かに話すための語彙力や文法の力を養っていく必要があります。

「読むこと」については、長文を読んで、大切な内容を読み取ったり、会話を組み立てていく問題が出題されました。「聞く」「話す」力に比べて通過率が低く、長文を読む力を伸ばしていく必要があります。

最重要課題は「書くこと」です。この調査で求められている「書く」力は、ただ単語を書いたり、日本語を英語に直すといったものではなく、総合的な力です。場面の状況を判断し、考え、場面がつながるように文章を書かなければなりません。

ればなりません。「読む」領域での会話を組み立てていく問題とも重なります。

このような力は、英語学習において最も高度なことです。「聞く」「話す」力をベースに、声に出して「読む」活動を大切にしなから、「書く」ことを重点的に指導していきたいと考えています。

具体的には、1年生の学習内容から「自己表現プリント集」を作り、市内全中学校で授業や宿題として取り組みます。

また、英語担当教員も積極的に研修を積んで授業力向上を図っていきます。

### 平成17年度通過率

#### 中学校英語

(単位:%)

	教科全体	実技	聞くこと 話すこと	読むこと	書くこと
庄原市	74.0	87.8	83.1	70.9	54.7
広島県	77.8	85.8	86.0	76.1	62.1